

令和4年度 年間行事予定(後半)

9月10日(土)	★保育参観 ひまわり会幹事会 小学生交流会 (2・3年生)
9月27日(火)	交通安全指導
9月30日(金)	消防車来園
10月15日(土)	★東雲みみょう フェスティバル
11月7日(月)	七五三パーティー
11月10日(木)	人形劇観劇 (3・4・5歳児)
11月19日(土)	★お楽しみ会(3歳児)
12月3日(土)	★生活発表会 (4・5歳児)
12月8日(木)	成道会
12月16日(木)	クリスマス会
12月22日(木)	餅つき
2月3日(金)	豆まき
2月15日(水)	ひなまつりお茶会 (5歳児)
3月3日(金)	ひなまつり会
3月25日(土)	★卒園式(5歳児)
未定	令和5年度 新入園説明会

毎月の行事 誕生会・避難訓練・身体測定
★印は保護者参加行事

※新型コロナウイルス感染予防のため、行事の日程・内容・参加者について変更又は中止になることもあります。

※おたよりや行事のお知らせは連絡アプリ「きっすノート」で配信します。1日1回はご確認をお願いします。

令和4年度9月の園だより

コロナ禍だからこそ子どもたちにたくさんの経験を

7月末、しろぐみ(年長児クラス)の子どもたちは、北広島町にある「順源会山の家」に一泊保育へ行きました。親御さんのもとを初めて離れ、普段と違う状況に戸惑いを感じて涙する子もいましたが、虫取りや色水遊び、大きな農園でのトウモロコシ採り、散歩などをおして自然を満喫したり、飯盒炊さんによるご飯づくり、みんなで火を囲んでのキャンプファイヤー、大きなログハウスでの生活、くまの・みらい保育園の子どもたちとの触れ合いなど、普段できない活動や体験、様々な人との関わりを通して、一回りも二回りも成長したと感じています。

さて、新型コロナウイルスに関する状況は、といえますと・・・7月にはほとんどなかった陽性連絡が、8月初旬ごろからポツリポツリとご家族の陽性の連絡を受けるようになりました。そして、8/9のあやめぐみ(5歳児)の臨時休園に始まり、8月末までに全学年において休園措置を取らせていただくこととなりました。特に8月中旬から末にかけてのウイルスの感染力は非常に強く、感染症対策を徹底し、二重マスクをしていた保育士でさえ感染してしまいました。また、園児がマスクの着用できない0.1.2歳児クラスにおいては、職員の半数近くが、新型コロナウイルスに罹患しました。

結果、8月中における園児と職員の感染者数は計107名(うち明らかな家族内感染は30名)となり、感染力の強さに適した迅速な対応がとれなかったことで、「もっと何かできたのではないかと悔やんでいます。

しかし、急な休園措置やお迎えのお願いにもかかわらず、ご協力をいただいたことで、休園措置後の感染拡大は収まりを見せました。今後、今回の状況を教訓にしていきたいと思えます。

そのような感染拡大が懸念される状況ではありましたが、子どもたちにたくさんの経験や体験を通じて、たくさんの驚きや感動を感じてほしいということから、8月22日～8月26日まで「なつまつり ういーく ～えがおがつながるなつまつり～」をクラスごとではありましたが開催しました。

夏まつり係をはじめとして職員は子どもたちがたくさん笑顔を見せてくれるよう、また、期待感が持てるようなワクワクする企画を共に考え、夏祭りメニューにおいては給食室と連携して、子どもたちが喜んでくれるよう、提供場所や提供方法などにも工夫を凝らすなどし、五感を通して夏祭りが体感できるよう努めてきました。

そんな中、あかぐみ(3歳児)1クラス目が1階のヨーヨー釣りコーナーを楽しんだ後のことです。ヨーヨー釣りの担当者に子どもたちの様子を尋ねたところ、子どもたちの多くはヨーヨー釣りの釣り針の金属部分を持ち、その後、どのようにすれば良いかがわからない子がたくさんいたとのことでした。また、例えヨーヨー釣りの釣り針の持ち方がわかったとしても、今度はヨーヨーのどの部分に引っ掛ければ取れるのかがわからず、風船の根元部分に一生懸命引っ掛けようとする子もいたとのことでした。そこで、担当者は、釣り針の持ち方に加えて、その釣り針をどこへ引っ掛ければ良いかも含めて説明しました。話を聞いてどうすればヨーヨーをとることができるのかわかった子どもたちは、どの子も次々にヨーヨーを釣っていき、取れるたびに飛び跳ねて喜び満面の笑みを見せて、「もっと釣りたいもっと釣りたい」と声をあげていました。

2019年12月から始まった新型コロナウイルスの感染は私たちの生活に多大な影響をもたらしていることは言うまでもありませんが、今回のヨーヨー釣りのようにコロナ禍前の状況であれば地域の夏祭りなどにおいて、これまでに体験できたであろう様々な機会も奪われている状況にもあります。

園内報第61号巻頭文においても理事長が記述しているように、「指示がなくても、何をしたらよいかかわかる子」にしようとするためには、赤ちゃんのときから小学校に上がるまで、興味、関心、楽しさを感じたり、やりたいことを納得するまで遊びこむ場を用意して、登園から帰宅するまで退屈することなく、考えながら遊べるようにすることにあります。

コロナ禍により家庭や地域での様々な体験をする機会が減ってきている昨今、これをしたという創造力や選択肢の幅も必然的に狭まり、興味や関心、楽しさを感じたりすることも減ってきてしまっています。

行事や日常の保育ではもちろんのこと、ご家庭と協力しながら、子どもたちの体験する機会をさらに増やすことで、興味や関心を高め、非認知能力の育成に繋がっていきたいと思えます。引き続き、ご理解・ご協力お願いいたします。

園長



ヨーヨー釣りの釣り針

第二みみょうこども園

子育て応援メッセージ

敏感です
子どもの喜びに
いいお母さんは



子どもがうれしいとお母さんもうれしい、そしてお母さんがうれしいと子どももうれしいのです。頭のてっぺんからつま先まで、子どもは全身で表現していますから、お母さんにはわかります。子どもが何か話しかけてきたら、ちゃんと受け止めてください。子どもに負けないくらい、どんなに愛しているかを態度で示してほしいのです。

新潮社 「子どもはみんな問題児」より
著者 中川李枝子
主な著作 「ぐりとぐら」「いやいやえん」など

いざという時に備えて住宅用火災警報器、消火器などを備えましょう

9月1日 防災の日
9日 救急の日



広島市南消防署